

東御市スポーツ推進計画
前期アクションプラン
(素案)

(2020 年度～2021 年度)

令和2年3月
東御市

目 次

I 前期アクションプランの策定について

1 策定の趣旨	1
2 計画期間	1
3 計画の概要	1
4 計画の役割	1
5 進捗管理	2
6 S D G s の達成に向けた位置づけ	2

II 前期アクションプラン3つの戦略（柱）

1 戦略1 地域を創る総合型地域スポーツクラブの創設	3
2 戦略2 裾野の拡大を目指したスポーツ推進委員の体制強化	4
3 戦略3 地域経済活性化に向けたスポーツコミッションの創設	5

III 実施主体による具体的な取組み（事業）

1 取組み（事業）の展開	6
2 取組み（事業）の構成	9
3 取組み（事業）の内容（個票）	10

【参考】

- ・アクションプランにおける取組（事業）の進捗管理評価シート
- ・アクションプラン（令和2年度～令和3年度）取組（事業）の評価・検証

I 前期アクションプランの策定について

1 策定の趣旨

東御市スポーツ推進計画（以下「推進計画」という。）は、平成31年度（2019年度）から令和5年度（2023年度）までの5年間を計画期間としており、「スポーツにあふれた、活力と魅力あふれるまちづくり」を基本理念とし、「日常にスポーツがあり、人間関係と地域経済が豊かな、健康で笑顔輝くまち・とうみ」を10年後の目指す姿とした東御市にけるスポーツ振興の指針となっています。

推進計画で掲げた基本目標を実現していくためには、理念を踏まえつつ、その時々为社会情勢等に的確に対応し、重点的に行うべき取組みや優先度の高い取組みについて、効果的かつ効率的に実施していくことが必要です。

そのため、2か年を計画期間とする前期アクションプランを策定し、計画期間において重点的・優先的に実現すべき3つの戦略を掲げ、戦略に基づき具体的に取組むべき取組み（事業）を示し、その着実な実施と進行管理を図っていくものです。

2 計画期間

前期アクションプランの計画期間は、令和2年度（2020年度）から令和3年度（2021年度）までの2年間とします。

3 計画の概要

推進計画における基本目標を具体化するためには、子ども・子育て支援、健康づくり、高齢者・障がい者福祉や学校教育等々の分野の各種計画との整合性が極めて重要になることから、行政内部の関連部局の連携を密に行い、市民や関係団体が共通認識を持ち、推進計画の基本理念の実現に向けて総合的かつ計画的に取り組んでいくことが必要です。

そのため、このアクションプランは3つの戦略（柱）により構成し、戦略をに沿った具体的な取組みを進め、各年次に戦略の進捗状況を確認することで、計画の確実な進捗を図ります。

4 計画の役割

この計画は、スポーツ推進計画の実現に向け、前期2か年に重点的・優先的に実現が必要となる3つの戦略を掲げています。その目的・目標の達成に向け、実施主体が実施する個別の具体的取組みについて、アクションプランの展開、アクションプランの取組み（事業）内容（個票）に示しています。

なお、推進計画における取組み（事業）状況を把握しやすく、また、的確な進捗管理ができるよう、基本目標に準じて構成することで着実な事業執行を図るものです。

ついては、各年度のスポーツ行政の基盤となるもので、本計画で示す具体的取組み（事業）（個票）の達成により戦略の実現を図っていくもので、実施主体及び連携先が市民をはじめ、スポーツ関係団体、専門機関、企業等の幅広い主体と協働しながら取組みを展開していくものです。

5 進捗管理

アクションプランの進捗状況を点検・評価するに当たり、掲げた3つの戦略についての成果、達成度、課題等について各担当課が連携し点検を行い、評価の中で取組み（事業）の分析及び後期アクションプランの方向性に反映させます。

また、客観性を確保するため、点検・評価原案に対しては、「東御市スポーツ推進審議会」の意見を聴取しながら進めます。なお、効果的かつ効率的な取組み（事業）を行うため、効果を検証しながら必要に応じて内容の見直しを行うとともに、目標等の達成状況についても定期的に点検していきます。

6 SDGsの達成に向けた位置づけ

本計画は、スポーツ推進計画に掲げた基本目標に即した具体的な取組みを示したものです。よって、スポーツ推進計画に掲げる施策と特に関連するSDGsの目標を下表のとおり紐づけ、本計画の推進がSDGsの目標達成に資するものとして位置付けます。

基本目標	特に関連するSDGsの目標
【基本目標1】 生涯にわたってスポーツに親しむ子どもたちの育成	 
【基本目標2】 誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実	 
【基本目標3】 スポーツによる地域経済の活性化	  
【基本目標4】 競技スポーツ人口の拡大と競技力向上	 

	保健	【目標3】あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。 住民の健康維持は自治体の保健福祉行政の根幹です。国民皆保険制度の運営も住民の健康維持に貢献しています。都市環境を良好に保つことが住民の健康状態の維持・改善に必要であるという研究も報告されています。
	教育	【目標4】すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。 教育の中でも特に義務教育等の初等教育においては自治体が果たすべき役割は非常に大きいといえます。地域住民の知的レベルを引き上げるためにも、学校教育と社会教育の両面における自治体行政の取組は重要です。
	経済成長と雇用	【目標8】包摂的かつ持続可能な経済成長、及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する。 自治体は経済成長戦略の策定を通して地域経済の活性化や雇用の創出に直接的に関与することができます。また、勤務環境の改善や社会サービスの制度整備を通して労働者の待遇を改善することも可能な立場にあります。
	インフラ、産業化、イノベーション	【目標9】強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進、及びイノベーションの推進を図る。 自治体は地域のインフラ整備に対して極めて大きな役割を有しています。地域経済の活性化戦略の中に、地元企業の支援などを盛り込むことで新たな産業やイノベーションを創出することにも貢献することができます。

	実施手段	【目標 17】持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。 自治体は公的／民間セクター、市民、NGO／NPOなどの多くの関係者を結び付け、パートナーシップの推進を担う中核的な存在になり得ます。持続可能な世界を構築していく上で多様な主体の協力関係を築くことは極めて重要です。
---	-------------	--

※SDGs（エス・ディー・ジーズ）とは・・・2015年（平成27年）の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された平成28年（2016年）から平成42年（2030年）までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲットから構成され、「地球上の誰一人として取り残さない」社会の実現を目指し、開発途上国のみならず先進国を含む国際社会全体の目標として、経済・社会・環境の諸問題を統合的に解決することの重要性が示されています。

Ⅱ 前期アクションプランの戦略（柱）

1 戦略1 地域を創る総合型地域スポーツクラブの創設

視点	子どもの運動嫌いやスポーツ機会の減少、部員不足、指導者不在による部活動のあり方、働き盛り・子育て世代の運動不足解消など、市民が健康で笑顔輝くまちを創りあげるため、地域における多様なスポーツ機会の提供、コミュニティの醸成を支援する新たな組織が必要です。
目的・狙い	総合型地域スポーツクラブの創設により、次の事項に取り組めます。 ◇幼少期から小学生期での運動遊び、外遊びプログラムの提供 ⇒幼保小、身体教育医学研究所との連携を図り取組み（通年） ◇スポーツ推進委員、地域づくりの会との連携によるスポーツイベントの開催 ⇒年間：2回以上開催 ◇車いすバスケットボールサークルの結成・運営 ⇒ユニバーサルスポーツ普及促進の起爆剤として活動（通年） ◇とうみボッチャオープン大会の企画・開催 ⇒年間：2回以上開催 ◇公民館・児童館でのボッチャ教室 ⇒5地区において実施（通年） ◇各種スポーツクラブ・教室及び中学校運動部活動・ゆるスポクラブへの指導者派遣 ⇒中学校との連携で人材バンク創設により派遣 ◇企業と連携した働き盛り・子育て世代のスポーツプログラムの提供 ⇒2教室（プログラム）以上実施（通年） ◇高齢者向けの健康づくりプログラムの開催 ⇒1つ以上開催（通年）
戦略の実行による成果目標 （令和3年度）	設立準備会により「地域に求められるクラブ」の創設をし、スポーツ推進委員、体育協会との連携はもとより、地域づくり組織との連携を積極的に行い、市民のスポーツニーズへの対応に加え、地域コミュニティの醸成を図ります。 主な数値目標 ☐ 人材バンク登録者数：20人以上】 ☐ 教室数：10教室以上 ☐ 会員数：200人以上

2 戦略2 裾野の拡大を目指したスポーツ推進委員の体制強化

視点	スポーツ推進委員へのニーズは高まっており、以前のスポーツを教える、イベントスタッフだけの役割でなく、多様な組織団体との連絡・調整や地域の障がい者スポーツの推進役として、地域におけるスポーツの裾野を広げる活動が期待されています。また、市民、行政、各種団体をつなぐパイプ役として、また、総合型地域スポーツクラブとの連携・協力体制を構築し地域スポーツのコーディネーターとして活動できる体制の強化を図り、多様化するスポーツニーズに応えられる活動組織としての体制強化が求められています。
目的・狙い	スポーツ推進委員の体制強化により、次の事項に取り組めます。 ◇体制見直し ⇒専門部制導入 ◇存在、役割の露出・アピール ⇒認知度の向上 ◇多様な組織・団体との連絡調整 ⇒支える組織の基盤強化 ◇総合型地域スポーツクラブ、地域づくりの会との連携・協力体制の構築 ⇒大会・イベント開催への支援（コーディネーター機能） ⇒車いすバスケットボールサークルの運営支援（通年） ⇒とうみボッチャオープン大会の企画・開催への支援 ⇒公民館・児童館でのボッチャ教室の支援（5地区） ⇒ゆるスポクラブへの指導者派遣 ⇒高齢者向けの健康づくりプログラム開催の支援 ⇒各種スポーツクラブ・教室への指導者派遣等支援
戦略の実行による成果目標 (令和3年度)	主な目標 ☐ 体制見直しによる専門性の発揮される組織 ☐ 活動意欲の向上及び質の向上 ☐ スポーツ推進委員の指導員人材バンクへの登録数：5人以上 ☐ ボッチャを中心としたユニバーサルスポーツの普及促進活動の充実 ☐ 総合型地域スポーツクラブ、地域づくり組織との連携した活動 ☐ 総合型地域スポーツクラブへの参画、協力 ☐ 「ゆるスポーツクラブ」へ委員派遣等の支援

3 戦略3 地域経済の活性化に向けたスポーツコミッションの創設

視点	湯の丸高原に新たな来訪者や宿泊客を獲得するため、陸上・水泳を中心とした高地トレーニング合宿受入による交流人口の増加、地域への経済波及効果による地方創生に取り組めます。 立地による強みを活かした積極的な合宿誘致、観光と連動したスポーツツーリズムの実施が知名度の向上、集客増加に必要不可欠です。 そのため、陸上施設、プール施設、民間宿泊施設、民間食事提供施設等の関係団体や施設管理者が一体的にスポーツによる地域経済の活性化を図るための全体統制組織が必要です。
目的・狙い	スポーツコミッションの創設により、次の事項に取り組めます。 ◇湯の丸高原全体の内部統制機能の構築 ◇円滑なスポーツ合宿受入と+αのサービス提供 ◇スポーツ・宿泊施設及び食事施設のサービス水準の管理 ◇交流イベントを含む各種イベントの開催（宿泊数増加、競技力向上） ◇来訪者・宿泊者の増加に向けた積極的なプロモーション
スポーツコミッションは、関係事業者と連携し、湯の丸高原におけるスポーツ合宿、スポーツツーリズムに関する企画調整、プロモーション等を行うコーディネーターの役割を果たし、来訪（宿泊）者数と売上の増加を図ります。 湯の丸高原スポーツコミッションの体制イメージ ◇企画調整機能：①組織の運営管理、事業統括、②企画・調査 ◇コーディネート機能：①合宿利用のワンストップ窓口、②プラスαのサービス提供 ◇プロモーション機能：①広報・PR、②合宿誘致、③イベント開催	
戦略の実行による成果目標 (令和3年度)	主な数値目標 □ スポーツツーリズムイベント開催：年間3回・参加者300人以上 □ アスリート交流イベント開催：年間2回・参加者200人以上 □ スポーツ合宿受入による集客（延べ宿泊）数：16,000泊以上 □ スポーツ交流施設利用者数：年間50,000人

Ⅲ 実施主体による具体的な取組み（事業）

1 取組み（事業）の展開

前期アクションプランでは、「スポーツにあふれた、活力と魅力あるまちづくり」の実現に必要な、組織の創設及び体制の強化に主眼を置いた3つの戦略に則して重点的な取組み（事業）を展開していきます。

なお、その戦略を取組みの柱と据えて、それぞれの実施主体が行う具体的な取組み（事業）を示しており、推進計画の基本目標に基づいて示しています。

基本目標1 生涯にわたってスポーツに親しむ子どもたちの育成

基本施策	個別施策	取組（事業）名
1－1 運動遊びによる就学までのスポーツの土台づくり	① 発達を促す基礎となる親子ふれあい遊びの推奨	1. 子どもの元気な育ちを支える事業
		2. 子どもの育ちを支える人材育成事業
	② 幼児期に子どもたちが主体的に遊べる機会の充実	1. 公立保育園における自由保育の推進
	③ 運動遊び・自然体験活動等による保育・幼児教育の充実	1. 運動遊び、信州型自然保育支援事業
1－2 小学期のスポーツへの円滑な接続	① 学校体育及び教科外・放課後活動充実のための専門的支援	1. しんたいやスポーツ推進委員による体力測定支援
	③ 様々なスポーツ種目の体験や、一流選手等との触れ合いができる機会の提供	1. 日本体育大学体操部との交流
1－3 中学生期のスポーツニーズへの対応	② 望ましい運動部活動のための支援体制づくり	1. 課外スポーツ活動や部活動のための外部指導者の賛成および人材バンクの整備
	③ 中学でのスポーツ離れを防ぐための「ゆる部活・ゆるスポーツ」等の導入	1. 「ゆるスポーツクラブ」の設置に関する検討

基本目標 2 誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実

基本施策	個別施策	取組（事業）名
2-1 スポーツ機会のきっかけとなる機会（イベント）の充実	① 市民参加型スポーツ大会・教室の開催、チャレンジデーへの継続的取組み	1. チャレンジデーへの継続参加
2-2 青壮年期のスポーツ活動の促進	① 働き盛り世代へのスポーツ活動の普及・促進	1. 健康づくり事業（ウォーキング教室）
2-3 スポーツ施設（ハード）の整備と活用	① スポーツ施設の適正管理	1. スポーツ施設長寿命化計画（仮称）の策定
2-4 地域スポーツ活動組織・人材等（ソフト）の充実	① スポーツ推進委員活動の強化	1. スポーツ推進委員組織体制の強化 ----- 2. スポーツ推進委員活動の強化
	③ 総合型地域スポーツクラブや人材バンク（仮称）の創設	1. 総合型地域スポーツクラブの創設 ----- 2. スポーツ指導員人材バンクの創設
2-5 スポーツを通じたユニバーサルな地域社会づくり	① 身近で実施できるユニバーサルスポーツ、レクリエーション活動等の充実	1. 一般介護予防事業 ----- 2. 車いすバスケットボールサークルの結成
	② 障がいの有無や地域の内外を問わずに多様な交流ができるスポーツイベント等の開催	1. とうみボッチャオープン大会の開催
	③ 市民の障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツとの触れ合い	1. みんなの健康×スポーツ実行委員会の継続的な開催 ----- 2. 公民館、児童館でのボッチャ活動

基本目標 3 スポーツによる地域経済の活性化

基本施策	個別施策	取組（事業）名
3-1 スポーツツーリズムの 推進	① 地域スポーツコミッションの設立	1. 「湯の丸スポーツコミッション」の創設・運営
	② 湯の丸高原スポーツ交流施設等でのイベント開催や合宿受入	1. スポーツツーリズム連絡会議 ----- 2. スポーツツーリズムイベントの開催
3-1 スポーツツーリズムの 推進（続き）	④ ホストタウン事業の推進	1. モルドバ共和国ホストタウン交流事業
3-2 スポーツを活かした地 域の活性化	① 産官学等の連携による湯の丸高原での高地トレーニング及びツーリズムの知見蓄積	1. 湯の丸高原スポーツ交流施設整備に伴う経済効果検証
		----- 2. 「高所トレーニング国際シンポジウム」の東御市開催

基本目標 4 競技スポーツ人口の拡大と競技力向上

基本施策	個別施策	取組（事業）名
4-1 スポーツ愛好から競技志向への円滑な接続	① トップレベルの競技スポーツの魅力に触れる機会の提供	1. トップアスリートとの交流イベントの開催
4-2 高みを目指す人々への 支援	① 強化選手や一流指導者等への奨励・表彰制度の充実	1. スポーツ表彰制度の創設
	③ 高地トレーニング環境整備と連動したトップアスリートや指導者等の招聘	1. トップアスリートとの交流イベントの開催

推進計画は、4つの基本目標に13の施策方針、更には38の個別施策で構成されています。個別施策は、目標を達成するための取組み（事業）の方向性であり、方向性に沿った具体的な取組み（事業）を効果的かつ効率的に執行するために、前期アクションプランでは、令和2年度から令和3年度の2年間に優先的かつ重点的に取組むべき3つの戦略として掲げ、その実現のために各実施主体が実施する29の具体的な取組み（事業）を示し、それぞれの個票にまとめています。

【個票の見方】

基本施策：推進計画で規定した名称

取組み(事業)：個別施策に基づき事業実施主体の担当部署の取組み(事業)名称 取組(事業)名	NO.	1-1-①-●		
	基本施策	1-1 運動遊びによる就学までのスポーツの土台づくり		
	個別施策	① 発達を促す基礎となる親子ふれあい遊びの推奨		
	取組(事業)の概要	〈目的・狙い〉 〈取り組み内容〉		
取組みの概要：施策の課題等に対応する当該取組み(事業)の目的・狙い、事業の内容 実施主体：取組み(事業)を主体的に実施する部署	実施主体		取組みの場：取組み(事業)を実施する主な活動場所 対象者：市が取組み(事業)の実施にあたり直接働きかける人やもの	
連携先：取組み(事業)実施にあたり連携して行う部署ならびに関係機関 事業目標	連携先		現状と目標水準：令和元年度現在の事業の状況(予算措置額)と前期アクションプラン最終年度での事業の達成状態または目標値 現状(令和元年度)	
事業目標：アクションプラン計画期間内に達成すべき状態や目標値		指標		
			予算額	千円
			目標水準(令和3年度)	
実施計画		令和2年度	令和3年度	
	予算額	千円	千円	

3 取組み（事業）の内容（個票）

基本目標1 生涯にわたってスポーツに親しむ子どもたちの育成

乳幼児期の運動、保育・幼児教育の現場における運動遊びの習慣化や信州型自然保育の取組みとして、地域特有の自然環境を活用した「外遊び」を中心に運動遊びから得る「楽しさ」を通じて幼児期に育むべき志向・能力の向上を目指します。また、学齢期までの継続的なスポーツの機会を通じて、子どもたちがスポーツの意義・価値を実感でき、生涯スポーツへのきっかけとなるような支援を行うことでスポーツ機会の充実と体力向上を図ります。

個票NO.	1-1-①-1			
基本施策	1-1 運動遊びによる就学までのスポーツの土台づくり			
個別施策	① 発達を促す基礎となる親子ふれあい遊びの推奨			
取組 (事業)名	東御の子ども元気な育ちを支える事業			
取組み の概要	〈目的・狙い〉 子どもの成長発達を促すため子どもの愛着形成を促進し、親子運動遊びや自然活動体験など、体験を通して親子で楽しみながら心身して子育てができるとともに、体を動かすことが楽しいと思える子どもを育みます。 〈取り組み内容〉 子育て支援センター施設内だけでなく、外遊びの機会を創出し、遊びが楽しめる取り組みを行います。 ①親子ふれあい運動プログラムの実践(ポケット広場、すくすく広場、みまき未来館) ②自然活動体験(中央公園、四季の森、芸術むら公園、海野宿) ③育児サークル自然活動体験(中央公園、四季の森)			
	実施主体	子育て支援課	取り組みの場	子育て支援センター、中央公民館、市内公園 等
	連携先	(公財)身体教育医学研究所	対象者	就園前の親子(0、1、2歳児)
事業目標	指標		現状 (令和元年度)	実施 ①7回開催、103人参加 ②8回開催、84人参加 ③5回開催、23人参加
	入園前の子どもの育ちを支える取組みとして、広く周知をすることで参加人数の増加及び定期的な実施を目指します。			
			予算額	450千円
			目標水準 (令和3年度)	継続実施
実施計画	令和2年度		令和3年度	
	継続		継続	
予算額(見込)	450千円		450千円	

個票NO.	1-1-①-2		
基本施策	1-1 運動遊びによる就学までのスポーツの土台づくり		
個別施策	① 発達を促す基礎となる親子ふれあい遊びの推奨		
取組 (事業)名	子ども育ちを支える人材育成支援事業		
取組み の概要	<目的・狙い> 子どもの育ちに関心ある保護者や子育て支援センターで養成を受けた子育て支援サポーター等 地域の子どもの育ちを支える人材、保育関係者等の育成を図ります。		
	実施主体	子育て支援課	取り組みの場 子育て支援センター、四季の森等
	連携先	(公財)身体教育医学研究所	対象者 サポーター希望者
事業目標	指標		現状 (令和元年度)
	育成講座参加者の増加及び定期的な開催による 子育て支援サポーターの安定化を図ります。		実施 ①4回開催、58人参加 ②1回開催、37人参加
			予算額 35千円
実施計画	令和2年度		令和3年度
	継続 →		継続
予算額(見込)	35千円		35千円

個票NO.	1-1-②-1			
基本施策	1-1 運動遊びによる就学までのスポーツの土台づくり			
個別施策	② 幼児期に子どもたちが主体的に遊べる機会の充実			
取組 (事業)名	公立保育園における自由保育の推進			
取組み の概要	〈目的・狙い〉 幼児期に子どもたちが主体的に遊べることの重要性は、平成30年度改定の「保育所保育指針」(厚生労働省)にも示されており、生涯の生活の基礎となる「学びの土台作り=アクティブラーニング(主体的、対話的で深い学び)」の実現を目的とします。 〈取り組み内容〉 保育指針に基づき、保育現場において自由保育を推進します。自由は放任の意味ではなく、アクティブラーニングの実現のために、 ①主体的:子どもが自分で進んでやろうとすることと同時に自分がやろうとすることに見通しをもって振り返ること ②対話的:自分の考えや感じたことを他の人に伝えあうこと。自分の考えに他の人の考えを取り入れながら自分もまた考えていくこと ③深い学び:なぜ?という理由や物事の仕組みを考えることによって学びをさらに深めることを培う活動(自由保育)の環境づくりを実施します。			
	実施主体	子育て支援課	取組みの場	公立保育園5園
	連携先	私立保育園、幼稚園	対象者	未就学児(3歳以上)
事業目標	指標		現状 (令和元年度)	実施
	一定期間で成果が見えるものではない取組みであることから、検証を積み重ねながら新たな視点も取り入れた継続的な取組みをします。		予算額	千円
			目標水準 (令和3年度)	継続実施
実施計画	令和2年度		令和3年度	
	継続 →		継続	
予算額(見込)	千円		千円	

個票NO.	1-1-③-1			
基本施策	1-1 運動遊びによる就学までのスポーツの土台づくり			
個別施策	③ 運動遊び・自然体験活動等による保育・幼児教育の充実			
取組 (事業)名	運動遊び、信州型自然保育支援事業			
取組み の概要	〈目的・狙い〉 健康的な生活習慣を子どもたちに定着させるため、体を動かして遊ぶことの楽しさを「運動遊び」により、また、地域資源を活用した屋外活動や地域との交流活動を「信州型自然保育」による保育を推進します。 〈取り組み内容〉 運動遊び、信州型自然保育支援事業について、運動指導士等の派遣を受け、信州型自然保育活動支援、毎月の運動あそび部会での指導及び2歳児3歳児運動遊び助言による指導を受け、保育士の資質向上を図ります。			
	実施主体	子育て支援課	取組みの場	公立保育園5園
	連携先	(公財)身体教育医学研究所	対象者	園児
事業目標	指標		現状 (令和元年度)	実施
	一定期間で成果が見えるものではない取組みであることから、検証を積み重ねながら新たな視点も取り入れた継続的な取組みとします。		予算額	202千円
			目標水準 (令和3年度)	継続実施
実施計画	令和2年度		令和3年度	
	継続 →		継続	
予算額(見込)	202千円		202千円	

個票NO.	1-2-①-1		
基本施策	1-2 小学生期のスポーツへの円滑な接続		
個別施策	① 学校体育及び教科外・放課後活動充実のための専門的支援		
取組 (事業)名	しんたいやスポーツ推進委員による体力測定支援		
取組み の概要	〈目的・狙い〉 児童生徒の体力の現状を正確に把握し、その後の取組み方針及び体力向上に活かします。 〈取組み内容〉 1学期に行う新体力テストの実施に際し、(公財)身体教育医学研究所(しんたい)やスポーツ推進員が各テストの正しい実施方法を指導するとともに、実際のテストに立ち会い正確な結果が得られるよう支援します。		
	実施主体	教育課	取り組みの場 学校他
	連携先	(公財)身体教育医学研究所、スポーツ推進委員、文化スポーツ振興課	対象者 ・小中学校教員 ・児童生徒
事業目標	指標		現状 (令和元年度)
	全小学校の体力テスト実施にしんたいやスポーツ推進委員が関わり継続的に実施します。		実施
			予算額 50千円
実施計画	令和2年度		目標水準 (令和3年度)
	令和3年度		継続実施
	継続 → 継続		
予算額(見込)	50千円		50千円

個票NO.	1－2－③－1			
基本施策	1－2 小学生期のスポーツへの円滑な接続			
個別施策	③ 様々なスポーツ種目の体験や、一流選手等との触れ合いができる機会の提供			
取組 (事業)名	日本体育大学体操部との交流			
取組み の概要	〈目的・狙い〉 一流のアスリートが行う演技や指導に直接触れることを通して、スポーツ・運動へのあこがれや実施に対する意欲をもてる機会を提供します。 〈取り組み内容〉 日本体育大学体操部の東御市合宿を誘致するとともに、各学校との交流会を実施します。交流会では、体ほぐし運動等、各校の希望に応じた実技指導をしてもらうとともに、模範演技を鑑賞できる機会を提供します。			
	実施主体	教育課	取組みの場	学校
	連携先	文化スポーツ振興課、スポーツコミッション	対象者	児童・生徒
事業目標	指標		現状 (令和元年度)	実施
	小学校での交流会を恒例行事にします。		予算額	100千円
			目標水準 (令和3年度)	継続実施
実施計画	令和2年度		令和3年度	
	継続		→ 継続	
予算額(見込)	100千円		100千円	

個票NO.	1-3-②-1			
基本施策	1-3 中学生期のスポーツニーズへの対応			
個別施策	② 望ましい運動部活動のための支援体制づくり			
取組 (事業)名	課外スポーツ活動や部活動のための外部指導者の養成および人材バンク整備			
取組み の概要	〈目的・狙い〉 東御市における部活動等指針(平成31年4月1日改定)に基づき、専門性を持った地域の方々の力を活用し、課外スポーツ活動や部活動の活性化を図ります。 〈取り組み内容〉 ・体育協会と連携し、スポーツ指導者養成のための研修会を実施します。 ・地域のスポーツ指導者としてふさわしい方々の人材リストを作成します。			
	実施主体	教育課	取組みの場	市内中学校
	連携先	東御市体育協会、総合型地域スポーツクラブ、文化スポーツ振興課	対象者	市内生徒
事業目標	指標		現状 (令和元年度)	未実施
	・指導者養成研修による指導者の増加による、人材リストの整備をします。 ・部活動におけるニーズと指導者のマッチングを実施します。		予算額	千円
			目標水準 (令和3年度)	・ニーズと指導者のマッチング ・指導者リスト完成 ・指導者養成研修の開催
実施計画	令和2年度		令和3年度	
	検討・準備		実施	
予算額(見込)	千円		千円	

個票NO.	1-3-③-1			
基本施策	1-3 中学生期のスポーツニーズへの対応			
個別施策	③ 中学でのスポーツ離れを防ぐための「ゆる部活・ゆるスポーツ」等の導入			
取組 (事業)名	「ゆるスポーツクラブ」の設置に関する検討			
取組み の概要	〈目的・狙い〉 運動部活動に加入しない生徒を対象に、楽しめる運動、ニュースポーツを体験できる場を提供し、継続して運動を続けようとする意欲につなげます。 〈取り組み内容〉 地域型スポーツクラブの指導者が定期的に学校へ訪問し、生徒とともに運動の楽しさを分かち合う機会を設ける。なお、実施にあたっては、地域型スポーツクラブとスポーツ推進委員の連携・協力体制により推進します。			
	実施主体	教育課	取組みの場	市内中学校
	連携先	総合型地域スポーツクラブ、文化スポーツ振興課	対象者	市内生徒
事業目標	指標		現状 (令和元年度)	未実施
	学校と連携して「ゆるスポーツクラブ」の設置に向けた方針検討。		予算額	千円
			目標水準 (令和3年度)	設置に向けた仕組み等 の方針決定
実施計画	令和2年度		令和3年度	
	検討		方針決定	
予算額(見込)	千円		千円	

基本目標2 誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実

年齢、性別、障がいの有無等を問わず、誰もが自分のライフステージに応じたスポーツ活動に取り組めることは、生涯を通して幸福で豊かな生活を営むための基盤です。

よって、健康長寿社会、ユニバーサル社会の実現に向けた取組みを優先的にを行い、スポーツ活動を支える人づくりや、環境整備等によってさまざまなライフステージに応じたスポーツ活動を推進し、生涯にわたる地域スポーツの振興を図ります。

個票NO.	2-1-①-1			
基本施策	2-1 スポーツ参加のきっかけとなる機会(イベント)の充実			
個別施策	① 市民参加型スポーツ大会・教室の開催、チャレンジデーへの継続的取組み			
取組 (事業)名	チャレンジデーへの継続参加			
取組み の概要	〈目的・狙い〉 運動やスポーツの習慣化を図るきっかけづくりとして、継続的にチャレンジデーに参加することで、健康意識や運動・スポーツに対する意識の向上を図るとともに、日常にスポーツがある地域としての素地づくりにつなげます。 また、チャレンジデーをきっかけに、スポーツ団体やプロ スポーツチームとの協力関係を深めることで、その後、様々な教室やイベントの開催へ発展することを期待します。 〈取組み内容〉 ①チャレンジデー東御市実行委員会の設置:広報活動、関係団体への協力依頼、プログラム内容の決定) ②各年度の目標・テーマの設定 ③地域の特性を活かしたプログラムを作成し、参加への関心、興味を抱くイベントを企画 ④広報活動として、地域にチャレンジデーの取組み意義を知ってもらうため、広報誌 や地元新聞、ラジオ、CATV等のメディアを活用して、チャレンジデー当日のイベントや参加方法について積極的に周知			
	実施主体	文化・スポーツ振興課	取り組みの場	市内全域
	連携先	笹川スポーツ財団、体育協会、総合型地域スポーツクラブ、企業、身体教育医学研究所	対象者	市民、市内在勤・在学者
事業目標	指標		現状 (令和元年度)	参加率60.3%
	市民総参加型スポーツイベントとして、事前周知及び関係機関との連携により、日常で運動・スポーツを「する」機運を高める。 令和5年度での参加率63%を目指す。		予算額	900千円
			目標水準 (令和3年度)	金メダルの獲得 参加率62%
実施計画	令和2年度		令和3年度	
	継続		→ 継続	
予算額(見込)	900千円		900千円	

個票NO.	2-2-①-1		
基本施策	2-2 青壮年期のスポーツ活動の促進		
個別施策	① 働き盛り世代へのスポーツ活動の普及・促進		
取組 (事業)名	健康づくり事業(ウォーキング教室)		
取組み の概要	〈目的・狙い〉 日常生活で積極的に身体を動かすことや運動に取り組むことにより、運動機能の向上、生活習慣予防にもつながるため、今よりも10分多く身体を動かす「+10ミニッツ」を推進し、健康づくりに向けた習慣化を図る。 〈取り組み内容〉 1 ウォーキングマップを活用したウォーキング教室 ①ウォーキング教室(ウォーキングボール教室、インターバルウォーキング教室、スロージョギング教室)の開催 ②地区保健補導員会と地域づくり協議会との共催によるウォーキング教室の開催 2 運動指導出前講座 ①生涯学習課が実施する出前講座で健康保健課主体の運動に関する講座を実施		
	実施主体	健康保健課	取り組みの場 市内 (ウォーキングマップを活用)
	連携先	東御市保健補導員会、 地域づくり協議会、(公財)身体教育医学研究所	対象者 市民、市内在勤者
事業目標	指標		実施 ①64歳以下:男性 6,034歩 女性 5,320歩 65歳以上:男性 4,723歩 女性 3,884歩 ②男性:46.6%、女性:6.2% ③1,105人
	①「1日当たりの平均歩数」(5年に1度実施する「保健事業アンケート」より) ②「30分以上の運動を週1〜2回以上実施している割合」(5年に1度実施する「保健事業アンケート」より) ③「集団運動教室の参加者数」(上記取組教室等の参加者数)		現状 (令和元年度)
			予算額 617千円 目標水準 (令和3年度) ①64歳以下:男性 6,200歩 女性 5,500歩 65歳以上:男性 5,300歩 女性 4,600歩 ②男性:46%、女性:46% ③1,100人
実施計画	令和2年度		令和3年度
	継続 		継続
予算額(見込)	617千円		617千円

個票NO.	2-3-①-1			
基本施策	2-3 スポーツ施設等(ハード)の整備と活用			
個別施策	① スポーツ施設の適正管理			
取組 (事業)名	スポーツ施設長寿命化計画(仮)の策定			
取組み の概要	〈目的・狙い〉 長寿命化計画の策定を通じ、これまでの改築中心から長寿命化への転換により、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減を図るとともに、市内スポーツ施設の利用実態や老朽化するスポーツ施設の状況を把握し、長寿命化等に係る予算の平準化に努めます。 今後の適正なスポーツ施設管理により、利用者が安心・安全にスポーツを楽しめる環境づくりを図ります。 〈取り組み内容〉 対象施設の現状を調査し、東御市スポーツ施設長寿命化計画(仮)を策定する。 また、利用実態や利用者ニーズの把握に努め、対象施設にはバリアフリー化を行い、利用者の利便性・安全性を向上させます。			
	実施主体	文化・スポーツ振興課	取組みの場	スポーツ施設全般
	連携先	指定管理者	対象者	利用者
事業目標	指標		現状 (令和元年度)	未実施
	東御市公共施設等総合管理計画では2017年度から2056年の40年間を計画期間としていることから、スポーツ施設の長寿命化計画についても早急に策定し、総合管理計画との整合を図ります。		予算額	0千円
			目標水準 (令和3年度)	スポーツ施設長寿命化計画(仮)策定
実施計画	令和2年度		令和3年度	
	各対象施設の利用実態・ニーズの調査		スポーツ施設長寿命化計画(仮)策定	
予算額(見込)	0千円		8,250千円	

個票NO.	2-4-①-1			
基本施策	2-4 地域スポーツ活動組織・人材等(ソフト)の充実			
個別施策	① スポーツ推進委員活動の強化			
取組 (事業)名	スポーツ推進委員組織体制の強化			
取り組み の概要	〈目的・狙い〉 市民や行政、体育協会、障がい者スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブなどとの連携を図るとともに、多様な組織や団体との連絡調整を行う中で幅広いネットワークを築き、地域スポーツに欠くことのできない「支える」組織の基盤として体制を強化します。また、地域特性を活かした大会・イベントの企画、地域スポーツのコーディネーターとして、市民のスポーツや健康づくりの基盤として地域におけるスポーツ活動の幅を広げる活弁な活動ができる組織を目指します。 〈取り組み内容〉 スポーツ推進委員の目的を共有するため市独自の研修会や勉強会、会議などを企画します。委員各々の強みを活かした活動ができるよう、広報部、事業部及び地区部等の専門部会を設け、担当委員を配置します。 多様な価値観を受け入れ、地域のニーズを捉えた独自のスポーツイベントを企画するなど、地域スポーツのコーディネーターとしての役割を果たせる人材で構成し、質の向上を目指した組織とします。			
	実施主体	文化・スポーツ振興課	取り組みの場	地域
	連携先	体育協会、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員	対象者	東御市スポーツ推進委員
事業目標	指標		現状 (令和元年度)	・定例会の実施 ・スポーツ事業への派遣 ・上小スポーツ推進委員協議会活動 ・検討、準備
	・組織体制の強化により、さらなる活動意欲の向上と組織の活性化 ・分任制の適用から専門部会を設置し質の向上 ・障がい者スポーツの推進役 ・総合型地域スポーツクラブ、地域づくりの会との円滑な連携体制の構築		予算額	300千円
			目標水準 (令和3年度)	組織編成による体制強化
実施計画	令和2年度		令和3年度	
	組織編成の検証・調整 勉強会、会議、研修の実施(連絡・調整の役割を果たすため)		体制強化の実現	
予算額(見込)	300千円		300千円	

個票NO.	2－4－①－2			
基本施策	2－4　地域スポーツ活動組織・人材等(ソフト)の充実			
個別施策	①　スポーツ推進委員活動の強化			
取組 (事業)名	スポーツ推進委員活動の強化			
取り組み の概要	〈目的・狙い〉 スポーツ推進委員の活動の制度を見直すことで、より多くの委員が活動に参加でき、活躍できる機会を増やすことで、委員のやりがいはいはもとより地域へのスポーツ振興の波及効果を高める。 〈取り組み内容〉 活動に対して単位制を導入し、各年度(上半期・下半期)活動計画を作成し、定めた活動を1年を通して行うことで、各委員の活動の見える化を図るとともに各分野のリーダー育成につなげる。 各種事業参加を見直し、専門的な知識・経験を有する分野での活動機会を増やし、主体的な活動を推進するとともに、地域のスポーツの広がり、競技力の向上に寄与する活動を行う。 業務遂行に対する評価や改善点のフィードバックも1年を通して行っていく。 優れた活動をした委員に表彰を行うことで、意欲の向上を図る。			
	実施主体	文化・スポーツ振興課	取り組みの場	地域
	連携先	スポーツ推進委員、地域づくりの会	対象者	東御市スポーツ推進委員
事業目標	指標		現状 (令和元年度)	・定例会の実施 ・スポーツ事業への派遣 ・上小スポーツ推進委員協議会活動 ・単位制導入の検討、準備
	・活動の見直し・表彰制度の導入により、委員の活動意欲の向上を図ります。 ・スポーツ推進のコーディネーターとして人材育成を図ります。 ・総合型地域スポーツクラブ、地域づくりの会等と連携した活動を図ります。 ・指導員人材バンクへの登録。			
			予算額	950千円
実施計画	令和2年度		令和3年度	
	単位制の内容の検討 表彰規定の検討		単位制導入の検証 表彰	
予算額(見込)	950千円		950千円	

個票NO.	2-4-③-2			
基本施策	2-4 地域スポーツ活動組織・人材等(ソフト)の充実			
個別施策	③ 総合型地域スポーツクラブや人材バンク(仮称)の創設			
取組 (事業)名	スポーツ指導員人材バンクの創設			
取り組み の概要	〈目的・狙い〉 スポーツ指導員の登録制度により、運動・スポーツの指導ができる(したい)人と指導を受けたい人を結びつけ(マッチング)、市民が気軽に、いつでも、どこでも、いつまでも、運動・スポーツに親しめる環境の整備とスポーツ指導者が知識、経験を活かした活躍ができる仕組みづくりをすることで市内スポーツの活性化を図ることを目的とします。 なお、総合型地域スポーツクラブ、体育協会、小中学校、企業との連携を図ることで、効率的な発掘・登録と効果的な人材の派遣を図ります。 〈取り組み内容〉 体育協会、各競技団体、スポーツ関係団体、企業、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ等との連携により多種多様な指導者及びボランティアの募集、掘起し、また積極的な指導者資格の取得に向けた支援体制を構築します。 スポーツ指導員の登録制度を確立し、市内の団体、学校部活動、地域スポーツクラブ等へ指導員(者)を紹介します。			
	実施主体	文化・スポーツ振興課	取り組みの場	市内(地域)
	連携先	体育協会、総合型地域スポーツクラブ、教育機関、企業等	対象者	スポーツ指導者
事業目標	指標		現状 (令和元年度)	指導者育成事業補助金による支援
	・「スポーツ指導員人材バンク」の創設 ・登録者数の増加		予算額	100千円
			目標水準 (令和3年度)	・「スポーツ指導員人材バンク」創設 ・登録者数20人以上
実施計画	令和2年度		令和3年度	
	検証・創設準備 指導者資格取得者数の調査		創設 指導者資格取得支援の構築	
予算額(見込)	100千円		100千円	

個票NO.	2-4-③-1			
基本施策	2-4 地域スポーツ活動組織・人材等(ソフト)の充実			
個別施策	③ 総合型地域スポーツクラブや人材バンク(仮称)の創設			
取組 (事業)名	総合型地域スポーツクラブ創設			
取組み の概要	〈目的・狙い〉 総合型地域スポーツクラブの最大の特徴である多種目、多世代、多志向なスポーツ環境の整備を目指し、小中学生期のスポーツニーズにも対応が可能な、誰もが求めるレベルでスポーツに親しむことができ、地域コミュニティの醸成と運動・スポーツ機会の充実を図るために創設を支援します。 〈取り組み内容〉 スポーツ推進委員、体育協会、スポーツ少年団、スポーツ推進審議会等のスポーツ関係団体による地域スポーツの課題解決に向けた話し合いを重ね、「地域に求められる」総合型地域スポーツクラブを目指します。 設立準備会の設置、現状及びニーズの把握、クラブマネージャーの育成を図る。また、提供するプログラムの構築と併せて指導者の発掘及び指導者登録を行います。 なお、創設に向けて、体育協会、スポーツ推進委員との連携はもとより、地域づくりの会等のまちづくり組織との連携を図ります。 会員の確保にも積極的なPRと幅広いプログラムの提供に努めます。			
	実施主体	総合型地域スポーツクラブ 設立準備委員会	取組みの場	市内(地域)
	連携先	スポーツ推進委員、地域づくりの会、文化・スポーツ振興課	対象者	総合型地域スポーツクラブ会員
事業目標	指標		現状 (令和元年度)	・設立準備委員会設置 ・現状把握、ニーズ調査
	幅広い年齢層を対象とし、ニーズに応じたクラブ運営を推進。 教室数の増加及び会員数の増加。		予算額	150千円
			目標水準 (令和3年度)	教室(プログラム)数:10 イベント開催:年4回以上 会員数:200名
実施計画	令和2年度		令和3年度	
	総合型地域スポーツクラブ設置 (令和3年2月)		→ 継続 教室・会員数の増加への取組み	
予算額(見込)	150千円		500千円	

個票NO.	2-5-①-1		
基本施策	2-5 スポーツを通じたユニバーサルな地域社会づくり		
個別施策	① 身近で実施できるユニバーサルスポーツ、レクリエーション活動等の充実		
取組 (事業)名	一般介護予防事業		
取組み の概要	〈目的・狙い〉 高齢者等の身体・認知機能の維持・向上を図るために継続的な活動を要することから、活動の中心となる指導員、サポーター及び参加者の増加を図ります。 〈主な取組み内容〉 1 らくらく教室(頭と体を無理なく刺激する介護予防教室) 地区公民館で、それぞれ週1回通年で実施 2 かんたん体操教室(ストレッチ、全身の筋肉を意識した運動) 武道館等で月2回通年で実施 3 貯筋教室(腹筋やスクワットなどの筋力トレーニング) 武道館等で月2回通年で実施 4 転倒予防水中ウォーキング(水中でのストレッチ、ウォーキング等) 温泉アクティブセンターで毎週1回通年で実施 なお、上記の取組みは、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員との連携を図り推進します。		
	実施主体	福祉課	取組みの場 地区公民館 市内運動施設等
	連携先	(公財)身体教育医学研究所、(社福)みまき福祉会、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員	対象者 概ね65歳以上の市民
事業目標	指標		現状 (令和元年度)
	・令和3年度 介護予防計画の策定(更新)。 ・地域で主体的に介護予防活動を実践する人材の育成 ・介護予防事業参加者の増加		実施 活動の中心となるボランティアの増加、介護予防事業参加者の増加が課題
			予算額 6,134千円
実施計画	令和2年度		目標水準 (令和3年度)
	継続 介護予防ボランティア育成講習受講修了者数200人を目指す		新規 介護予防計画の策定(更新)
予算額(見込)	6,000千円		6,000千円

個票NO.	2-5-①-2			
基本施策	2-5 スポーツを通じたユニバーサルな地域社会づくり			
個別施策	① 身近で実施できるユニバーサルスポーツ、レクリエーション活動等の充実			
取組 (事業)名	車いすバスケットボールサークルの結成			
取組み の概要	〈目的・狙い〉 体験のレクリエーションとしても技術を求めても楽しめるスポーツ。 障がいの有無に関わらずバスケットボールが一緒に楽しめる環境づくりを目的とする。 〈取組み内容〉 ・車いすバスケットボール サークルを総合型地域スポーツクラブで結成 ・定期開催の他にイベントで体験会を実施 ・小学生から中学生が体験できる機会をつくる			
	実施主体	総合型地域スポーツクラブ	取組みの場	市内体育館
	連携先	みんなの健康×スポーツ実行委員会、スポーツ推進委員	対象者	子どもから大人全般
事業目標	指標		現状 (令和元年度)	未実施
	体験会の実施、サークルの結成による知る機会、 する機会の増加からユニバーサルスポーツの普 及を目指す。		予算額	0千円
			目標水準 (令和3年度)	参加者増加
実施計画	令和2年度		令和3年度	
	検討・準備 総合型地域スポーツクラブ設立に向けた プレイベントの開催		→ 実施 車いすの購入、サークル結成	
予算額(見込)	150千円		1,000千円	

個票NO.	2-5-②-1			
基本施策	2-5 スポーツを通じたユニバーサルな地域社会づくり			
個別施策	② 障がいの有無や地域の内外を問わずに多様な交流ができるスポーツイベント等の開催			
取組 (事業)名	とうみボッチャオープン大会の開催			
取組み の概要	〈目的・狙い〉 誰でも一緒に楽しめるユニバーサルスポーツ「ボッチャ」の普及を図るとともに、ボッチャを通して、市内住民のみならず、近隣市町村住民までの交流を図り、障がいへの理解を深めるとともに「ボッチャのまち・とうみ」を目指す。 〈取組み内容〉 ・ボッチャの大会+1種目のユニバーサルスポーツ体験会を実施 ・県及び他団体の取組みと連携を図り、年間を通じてストーリー性のあるイベントとする ・団体や組織、学校、施設からチーム出場を募るため、事前練習会を開催			
	実施主体	総合型地域スポーツクラブ	取組みの場	第一体育館
	連携先	みんなの健康×スポーツ実行委員会、スポーツ推進委員、福祉課	対象者	市民・近隣市町村住民
事業目標	指標		現状 (令和元年度)	未実施 ※県、障がい者支援団体、みんなの健康×スポーツ実行委員会がそれぞれ開催
	体験会・練習会の実施によるボッチャの普及を目指し、ボッチャコートの常設数増加と参加者増加を目指す。		予算額	0千円
			目標水準 (令和3年度)	コート常設数:6箇所以上 体験延べ人数:300人以上
実施計画			令和3年度	
	検討・準備 県、障がい者支援団体、みんなの健康×スポーツ実行委員会が連携し、プレ大会開催		実施	
予算額(見込)	100千円		300千円	

個票NO.	2-5-③-1			
基本施策	2-5 スポーツを通じたユニバーサルな地域社会づくり			
個別施策	③ 市民の障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツとの触れ合い			
取組 (事業)名	みんなの健康×スポーツ実行委員会の継続的な開催			
取組み の概要	〈目的・狙い〉 ・日常の活動へユニバーサルスポーツの取り込み ・公民館に設置しているポッチャの活用 ・児童館でのあそびの選択肢とする 〈取り組み内容〉 ・それぞれの目標を作り、積極的な参加を促す 公民館:分館対抗スポーツ大会の種目とし、それに向けての日々の活動 児童館:とうみポッチャオープン大会への出場を目標にあそびへの取り込み ・講師を派遣しての定期練習会の開催			
	実施主体	みんなの健康×スポーツ 実行委員会	取組みの場	市内施設
	連携先	(公財)身体教育医学研究 所、身体障がい者福祉協 会、てをつなぐ育成会、陽だ まりの会、ぴかそくらぶ、は こべの会、スポーツ推進委 員、体育協会、社会福祉協 議会、ちいさがた福祉会、み まき福祉会、福祉課、生涯学 習課、文化・スポーツ振興課	対象者	参加者
事業目標	指標		現状 (令和元年度)	実施
	障がいの有無に関わらずスポーツを楽しめる地域 づくりを目的に、情報共有、意見交換の場として継 続的に実行委員会開催をするとともに、各種イベ ントを開催する。		予算額	660千円
			目標水準 (令和3年度)	・実行委員会の開催 ・ユニバーサルスポーツイベ ント開催 ・とうみユニバーサルスポー ツクラブ支援
実施計画	令和2年度		令和3年度	
	継続		→ 継続	
予算額(見込)	660千円		660千円	

個票NO.	2-5-③-2			
基本施策	2-5 スポーツを通じたユニバーサルな地域社会づくり			
個別施策	③ 市民の障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツとの触れ合い			
取組 (事業)名	公民館、児童館でのボッチャ活動			
取組み の概要	〈目的・狙い〉 日常の活動の中に「気軽」に「あそび」としてボッチャを取り入れることで、ユニバーサルスポーツの楽しさに触れる機会を増やすことで、地域への普及に努めます。 〈取り組み内容〉 ・それぞれの目標を作り、積極的な参加を促す 公民館:分館対抗スポーツ大会の種目とし、それに向けての日々の活動 児童館:とうみボッチャオープン大会への出場を目標に遊びへの取り組み ・講師を派遣しての定期練習会の開催			
	実施主体	教育課、生涯学習課	取組みの場	公民館 児童館
	連携先	総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員、(公財)身体教育医学研究所	対象者	市民
事業目標	指標		現状 (令和元年度)	未実施 ※各公民館にボッチャセットあり
	身近な場所で「する」機会を増やす事から、日常(身近)にボッチャがある環境づくり、ユニバーサルスポーツに触れる機会を増やす。		予算額	0千円
			目標水準 (令和3年度)	・参加人数の増加 ・練習会実施回数の増加
実施計画	令和2年度		令和3年度	
	実施 各児童館に1セットずつ購入 公民館のセット、リペア 講師派遣をしての定期練習会開催		→ 継続	
予算額(見込)	1,000千円		0千円	

基本目標3 スポーツによる地域経済の活性化

本市の強みである湯の丸高原高地トレーニング施設を起爆剤として、官民が一体となり、スポーツ合宿の誘致、観光と連動したスポーツツーリズムを推進することで、知名度の向上や交流人口の拡大による地域経済の活性化を図ります。なお、スポーツ合宿・イベントの誘致によって、外から多くの人を誘い、交流人口の増加、ブランド化による集客増加の好循環を生み出すことで、更なる地域経済の活性化へつなげるとともに、専門機関との連携により、施設整備により実施している高地トレーニングの効果、スポーツツーリズムによる経済効果の検証・分析を行い、今後の地域にとっての経済活性化方策についても検討します。

個票NO.	3-1-①-1			
基本施策	3-1 スポーツツーリズムの推進			
個別施策	① 地域スポーツコミッションの設立			
取組 (事業)名	「湯の丸スポーツコミッション」の創設・運営			
取り組み の概要	〈目的・狙い〉 湯の丸高原スポーツ交流施設を活用してアスリート及び競技志向者を中心としてスポーツツーリズム（陸上合宿・水泳合宿）を実施し、湯の丸高原の知名度向上によるアスリート等の誘客を促します。 また、自然環境や食事においても楽しめることをプロモーションすることでブランド力を強化することで宿泊者数を増加させ、地域全体の売上増を目指します。 〈取り組み内容〉 1 創設に向けた組織検討 信州とうみ観光協会を中心とした組織体制の構築に向けた検討・準備 2 湯の丸高原全体の内部統制機能の構築 ①合宿・施設利用の受付／問合せ一本化、②各施設（宿泊、食事、施設）に関する意見収集、評価／分析、 ③スポーツ合宿の全体統制やPR活動等に関わる予算管理 3 来訪者・宿泊客数の維持/増加 ①プロモーション活動、②施設や自然環境を利用したイベントの企画／運営、③合宿等の利用顧客の新規開拓			
	実施主体	スポーツコミッション	取り組みの場	湯の丸高原スポーツ交流施設
	連携先	信州とうみ観光協会、指定 管理者、商工観光課、文化・ スポーツ振興課	対象者	合宿・イベント等の来訪者
	事業目標	指標		現状 (令和元年度)
スポーツコミッションの設立による各施設の適切な維持と運営、サービスの提供により、円滑で安心した合宿、競技志向イベントの開催により、湯の丸高原スポーツ交流施設のブランド化を図り、安定的な集客を図ることで経済活性化につなげる。		予算額	0千円	
		目標水準 (令和3年度)	・STイベント開催 年間3回以上 ・アスリートとの交流イベント開催 年間2回以上 ・スポーツ合宿数の増加 ・延べ宿泊数 16,000人	
実施計画	令和2年度		令和3年度	
	設立		→ 継続	
予算額(見込)	9,000千円		9,500千円	

個票NO.	3-1-②-1			
基本施策	3-1 スポーツツーリズムの推進			
個別施策	② 湯の丸高原スポーツ交流施設等でのイベント開催や合宿受入			
取組 (事業)名	スポーツツーリズム連絡会議			
取組み の概要	〈目的・狙い〉 市が有する社会資源と環境資源、都心からのアクセスの好さを活用したスポーツツーリズムによる交流人口の拡大と地域振興を図るため、東御市推進連絡会議により現状と課題の洗い出し及び対応策の具現化を図ります。 また、スポーツツーリズムによる観光誘客と産業の活性化を図る中で、新たなビジネス環境の創出のきっかけとします。 〈取組み内容〉 ①スポーツと周辺観光を組み合わせた滞在型プログラムを検証し、商品化の可能性を確認します。 ②スポーツ合宿招致のため、現状把握をし、課題を検討するとともに、効果的な取組み組織としてスポーツコミッションの創設を目指します。			
	実施主体	文化・スポーツ振興課	取組みの場	会議
	連携先	スポーツツーリズム推進 連絡会議委員	対象者	来訪者
事業目標	指標		現状 (令和元年度)	実施 現状把握、コミッション創設に ついての検証
	スポーツツーリズムの現状把握及び新たなプログラムの検証。スポーツコミッション創設に向けての検討及び運営への提言。		予算額	千円
			目標水準 (令和3年度)	スポーツコミッションについ て、スポーツツーリズムにつ いての提案
実施計画	令和2年度		令和3年度	
	継続 スポーツコミッション運営に係る検証		継続 新たなスポーツツーリズムプログラムの検証	
予算額(見込)	千円		千円	

個票NO.	3-1-②-2			
基本施策	3-1 スポーツツーリズムの推進			
個別施策	② 湯の丸高原スポーツ交流施設等でのイベント開催や合宿受入			
取組 (事業)名	スポーツツーリズムイベントの開催			
取組み の概要	〈目的・狙い〉 「湯の丸高原施設整備基本構想」の実現により、高地トレーニングの適地である標高1750mに位置する湯の丸高原に全天候型400mトラックや屋内プール等のスポーツ交流施設が整備され、陸上中長距離、水泳を中心とした本格的な合宿受入を行っている。今後ますます合宿の誘致を中心としたプロモーションを実施することはもとより、魅力的なスポーツツーリズムイベントを開催することで交流人口の拡大、知名度向上、集客増加等、地域経済活性化の好循環を創設する。 〈取り組み内容〉 ①テレビ、雑誌、新聞等によるメディアを活用した積極的なプロモーション活動 ②信州とうみ観光協会による、首都圏からの誘客による陸上、水泳のスポーツツーリズムイベントの開催 ③令和2年度からのスポーツコミッション設立後は、湯の丸スポーツ交流施設一帯の施設運営、プロモーションによるスポーツツーリズムイベント開催、合宿受入等を一元的にマネジメントする。			
	実施主体	スポーツコミッション	取り組みの場	湯の丸高原スポーツ交流施設
	連携先	施設指定管理者、信州とうみ観光協会、公益財団法人身体教育医学研究所、文化・スポーツ振興課	対象者	陸上長距離・水泳のアスリート、市外参加者（愛好者）
事業目標	指標		現状 （令和元年度）	（陸上・水泳） 合宿延べ宿泊数 13,000人
	合宿誘致プロモーション実施及びスポーツツーリズムイベント開催によりスポーツ合宿者数の増加		予算額	3,000千円
			目標水準 （令和3年度）	・年間3回以上開催 参加者300人程度 ・スポーツ合宿数の増加 ・延べ宿泊数 16,000人
実施計画	令和2年度		令和3年度	
	継続 プロモーション実施 ツーリズムイベント開催		継続 プロモーション実施 ツーリズムイベント開催	
予算額（見込）	3,000千円		2,000千円	

個票NO.	3-1-④-1		
基本施策	3-1 スポーツツーリズムの推進		
個別施策	④ ホストタウン事業の推進		
取組 (事業)名	ホストタウン交流事業		
取組み の概要	〈目的・狙い〉 ホストタウンであるモルドバ共和国のトップアスリートとの交流において「する」「みる」「ささえる」という側面から事業を展開することで、国際理解の醸成を深めるとともに、スポーツに触れる機会を増やします。 また、事前合宿・調整合宿を受け入れることにより、合宿適地としてのシティプロモーションへつなげる。 〈取り組み内容〉 ・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会へ出場する選手との交流により、トップアスリートと触れあう機会を設ける ・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会でモルドバ共和国の選手が出場する試合のパブリックビューイングを行う ・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会へ出場する選手の事前合宿をサポートし、「ささえる」取り組みを行うとともに、合宿適地であることのPRを行う		
	実施主体	地域づくり移住定住支援室	取り組みの場
	連携先	スポーツコミッション、東御市国際友好協会、市内小中学校、文化・スポーツ振興課	対象者
事業目標	指標		現状 (令和元年度)
	スポーツ交流事業への参加者数		モルドバ共和国大統領、オリンピック委員会の視察
			予算額
			目標水準 (令和3年度)
実施計画	令和2年度		令和3年度
	実施 ・2020大会参加アスリートとの交流 ・事前調整合宿の受け入れ		—
予算額(見込)	1,500千円		千円

個票NO.	3-2-①-1			
基本施策	3-2 スポーツを活かした地域の活性化			
個別施策	① 産官学等の連携による湯の丸高原での高地トレーニング及びツーリズムの知見蓄積			
取組 (事業)名	湯の丸高原スポーツ交流施設整備に伴う経済効果検証			
取組み の概要	〈目的・狙い〉 「湯の丸高原施設整備基本構想」により、地域特有の資源を活用した国内屈指の高地トレーニングエリアを目指した施設整備を行った。 そうした中で、各施設の整備・運営事業について、地域にもたらされる効果を検証及び今後の地域活性化モデルの構築を目的とする。 〈取り組み内容〉 スポーツビジネスの専門機関との共同研究及び分析を実施 ① 対象事業の整備運営に関する情報収集 ② 地域経済付加価値分析 ③ 経済的価値を高めるための方策の検討			
	実施主体	文化・スポーツ振興課	取組みの場	湯の丸高原スポーツ交流施設
	連携先	湯の丸観光開発㈱、信州とうみ観光協会、日本体育大学、商工観光課	対象者	利用者、施設及び観光関係事業者
事業目標	指標		現状 (令和元年度)	新規 整備・運営に係る情報収集 (関係者へのヒアリング等)実施
	地域経済付加価値分析による、地域にもたらさせる経済的価値の最大化を図る方策を立案		予算額	1,500千円
			目標水準 (令和3年度)	地域活性化プラン策定
実施計画	令和2年度		令和3年度	
	継続 施設運営に関する情報収集 来訪者の消費実態調査実施		継続 地域経済付加価値分析 地域の活性化モデル提案	
予算額(見込)	1,500千円		1,500千円	

個票NO.	3-2-①-2			
基本施策	3-2 スポーツを活かした地域の活性化			
個別施策	① 産官学等の連携による湯の丸高原での高地トレーニング及びツーリズムの知見蓄積			
取組 (事業)名	高所トレーニング国際シンポジウムの開催			
取組み の概要	〈目的・狙い〉 当市における開催は、関係者、市民が高地トレーニングに関する最新の知見を深く学ぶチャンスになるとともに、有識者・アスリートによる世界基準の最新の情報共有・交換の場とすることで、国内屈指の高地トレーニング環境を整えるための共通認識にもなる。「高地トレーニングに求められるもの」を知り、選手の最高のパフォーマンスに貢献し、市民、国民の感動につなげ、湯の丸高原の知名度向上を図る。 〈取り組み内容〉 シンポジウムの当市開催に向けた誘致活動、高所トレーニング環境システム研究会との連絡・調整等			
	実施主体	(公財)身体教育医学研究所	取り組みの場	湯の丸高原スポーツ交流施設
	連携先	高所トレーニング環境システム研究会、スポーツコミッション、文化・スポーツ振興課	対象者	有識者、アスリート、企業、市民
事業目標	指標		現状 (令和元年度)	実施 湯の丸高原スポーツ交流施設において開催
	当市での継続的開催による、高地トレーニングに関する知見の蓄積及び一般参加者数		予算額	0千円
			目標水準 (令和3年度)	東御市での開催 一般参加者100名以上
実施計画	令和2年度		令和3年度	
	継続 開催に向けた誘致活動、連絡・調整		湯の丸高原スポーツ交流施設での開催	
予算額(見込)	0千円		0千円	

基本目標4 競技スポーツ人口の拡大と競技力向上

地元の選手が大きな舞台で活躍する姿は、観るものに感動と勇気を与えるばかりでなく、地域に元気とスポーツへの興味を生み出します。

将来、国内トップレベルとなる選手を本市から輩出するため、指導者の育成、学校部活動の体制整備、競技スポーツ人口の拡大などに取組み競技力の向上を図ります。

本市への合宿誘致を通じて、トップレベルの競技者・指導者を身近に見る機会から選手、指導者のレベルアップを図ります。また、湯の丸高原を国内屈指の高地トレーニングエリアとして整備し、積極的なプロモーションをすることで競技者・指導者を招聘し、この地域ならではの交流機会の充実を図ります。

個票NO.	4-1-①-1		
基本施策	4-1 スポーツ愛好から競技志向への円滑な接続		
個別施策	① トップレベルの競技スポーツの魅力に触れる機会の提供		
取組 (事業)名	トップアスリートとの交流イベント開催		
取組み の概要	〈目的・狙い〉 高地トレーニング施設整備により湯の丸高原スポーツ交流施設での合宿者をきっかけとして、国内トップレベルのアスリート及び指導者を招聘し、交流の機会を設け、アスリート及び指導者の競技力向上に向けた取組み姿勢、練習方法、指導方法や等に直接触れることでのレベル向上を図る。 〈取組み内容〉 練習見学、技術指導、選手及び指導者とのディスカッションまたは講演等を開催する。		
	実施主体	スポーツコミッション 文化・スポーツ振興課	取組みの場 湯の丸高原スポーツ交流施設等
	連携先	東御市体育協会 総合型地域スポーツクラブ	対象者 競技者、指導者(保護者含む)
事業目標	指標		現状 (令和元年度)
	年間1回以上のトップアスリートとの交流イベント開催により、高みを目指す競技者及び指導者がトップアスリート及び指導者から学べる機会の創造		予算額
			300千円
実施計画	令和2年度		令和3年度
	継続		継続
	1,000千円		1,000千円

個票NO.	4-2-①-1			
基本施策	4-2 高みを目指す人々への支援			
個別施策	① 強化選手や一流指導者等への奨励・表彰制度の充実			
取組 (事業)名	スポーツ表彰制度の創設			
取組み の概要	〈目的・狙い〉 優秀な成績をおさめたスポーツ選手及び指導者、団体等に対して、功績が顕著であった者を表彰することで、競技スポーツの振興に寄与するとともに、更なるやりがいの醸成する。 また、功績を広く情報発信することにつながり、競技力向上への機運を加速させる。 〈取り組み内容〉 ①表彰対象及び区分の選考 ②表彰基準の検証・策定 ③表彰規定の検証・策定 ④表彰対象者の情報収集			
	実施主体	文化・スポーツ振興課	取組みの場	表彰式会場
	連携先	体育協会、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員、教育課	対象者	表彰対象者
事業目標	指標		現状 (令和元年度)	未実施
	年度内に1回、表彰式を実施し、優秀選手・指導者・優秀団体・スポーツ功労者へ表彰する。		予算額	千円
			目標水準 (令和3年度)	制度創設・実施
実施計画	令和2年度		令和3年度	
	準備・制度検証		創設	
予算額(見込)	千円		千円	

個票NO.	4-2-③-1		
基本施策	4-2 高みを目指す人々への支援		
個別施策	③ 高地トレーニング環境整備と連動したトップアスリートや指導者等の招聘		
取組 (事業)名	トップアスリートとの交流イベント開催		
取組み の概要	〈目的・狙い〉 高地トレーニング施設整備により湯の丸高原スポーツ交流施設での合宿者をきっかけとして、国内トップレベルのアスリート及び指導者を招聘し、交流の機会を設け、アスリート及び指導者の競技力向上に向けた取組み姿勢、練習方法、指導方法や等に直接触れることでのレベル向上を図る。 〈取組み内容〉 練習見学、技術指導、選手及び指導者とのディスカッションまたは講演等を開催する。		
	実施主体	スポーツコミッション 文化・スポーツ振興課	取組みの場 湯の丸高原スポーツ交流施設等
	連携先	体育協会、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員	対象者 競技者、指導者(保護者含む)
事業目標	指標		現状 (令和元年度)
	年間1回以上のトップアスリートとの交流イベント開催により、高みを目指す競技者及び指導者がトップアスリート及び指導者から学べる機会の創造		予算額 300千円
			目標水準 (令和3年度) 年間2回以上開催 参加者200名程度
実施計画	令和2年度		令和3年度
	継続 →		継続
予算額(見込)	1,000千円		1,000千円